

昭和三十二年三月調査

笠岡市の天然記念物

ソノ三

委員 佐藤清明

【改頁】

この冊子は昭和三十二年三月廿五日笠岡市真鍋島の天然記念物を調査した際の手記である。本調査にあたっては笠岡市教育委員会阪本氏及び笠岡市真鍋島支所長札場誠一氏の御協力を得る。○大なるものがあつた厚く御礼を申上げる。本輯は左の五件を含む。

記

- | | | |
|----|------------|--------|
| 一、 | 真鍋大島のイヌグス | 笠岡市真鍋島 |
| 二、 | イワタイゲキ自生地 | 全上 |
| 三、 | 真鍋島のオオサボテン | 全上 |
| 四、 | 妙見のウバメガシ | 全上 |
| 五、 | 真鍋島のホルトノキ | 全上 |

【改頁】

真鍋島は笠岡の東南約二〇キロメートルの処にあつて、六島、ハブ島、問島、モトコ島、大島等を衛星として一村を形成していたが、昭和三十年四月一日笠岡市に合併したものである。真鍋島は主として花崗岩からなる弧状島嶼でその周囲七・三一キロメートル、面積一・三九平方キロメートル、県下島嶼中では周囲で第九位に面積で第十一位を占める。人口約二千人。

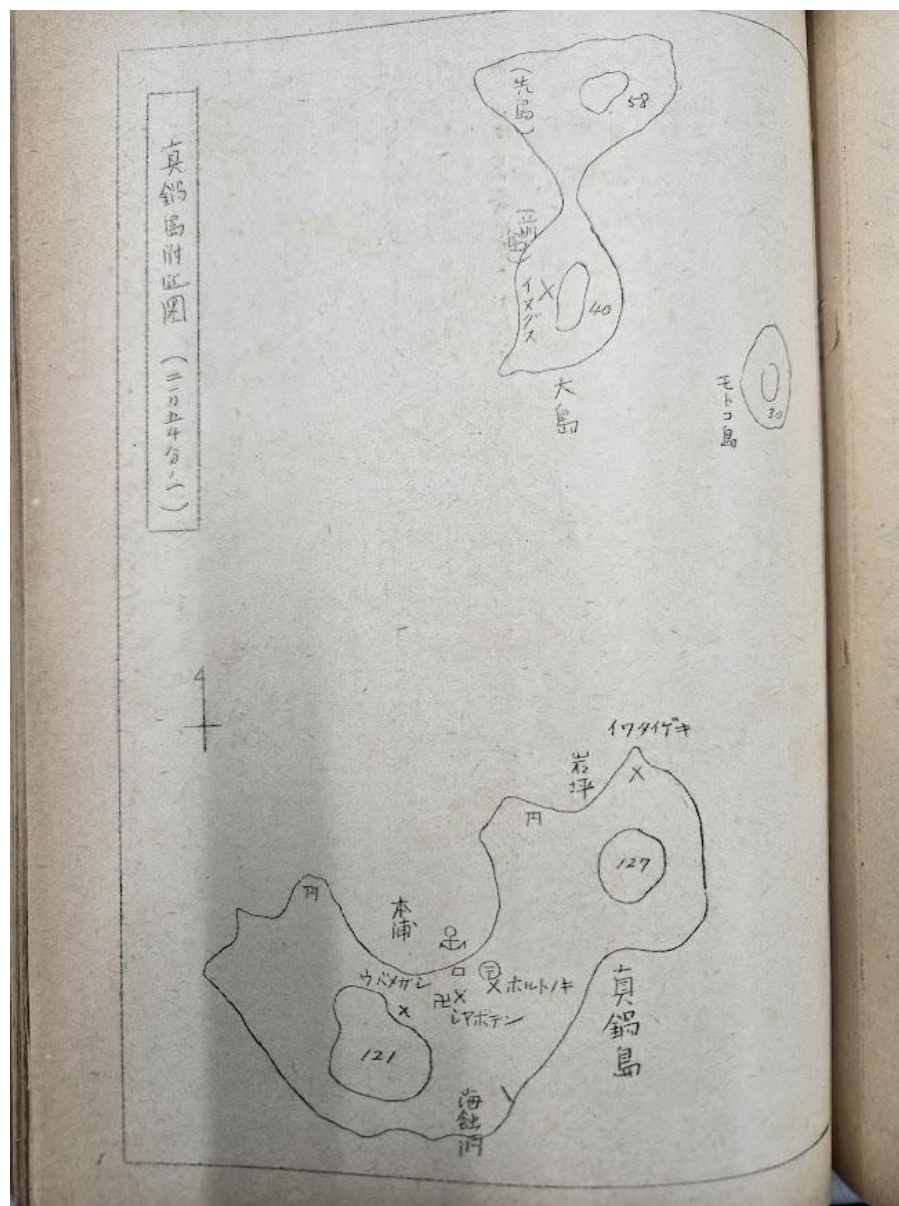
昭和五年六月十九日私はこの島に於て初めて採集を行い、ホルトノキ、モチノキ、ヒトツバ、マルバグミ等を得た。その後二回三四訪ねたが只今記録がない。戦後に昭和二十六年四月三、四日真鍋龍太郎氏を訪ねて全島を探索した。当時村長久一虎男氏、助役山下〇美男氏、村議山本兼一氏の御協力を得て無人島の真鍋大島にイヌグスの巨樹を発見し妙見山のウバメガシを県下第一のウバメガシ巨樹と断定した。翌昭和二十七年六月二十三日ここにまた上陸した際にホルトノキは花が満開であつた。昭和二十六年六月二十二日、イヌグスとホルトノキは天然記念物として県指定を行つた。

それより六年真鍋島には訪問の機会がなかつたので最近の模様を伺いたく昭和三十二年一月廿五日笠岡市教育委員会に連絡して笠岡駅に到着、阪本主事の出迎えを受け、八時三十分伏越港を出発、途中神島瀬戸、外浦、白石北木に寄港して十時三十分真鍋港に到着、真鍋支所に寄り来意を告げ支所長札場誠一氏に案内され直ちに真鍋大島に向う。

真鍋島

真鍋島は笠岡の東南約二〇キロメートルの処にあつて、六島、ハブ島、問島、モトコ島、大島等を衛星として一村を形成していたが、昭和三十年四月一日笠岡市に合併したものである。真鍋島は主として花崗岩からなる弧状島嶼でその周囲七、三一キロメートル、面積一、三九平方キロメートル、県下島嶼中では周囲で第九位に面積で第十一位を占める。人口約二千人。

【改頁】



「真鍋島附近図（二万五千分の一）」

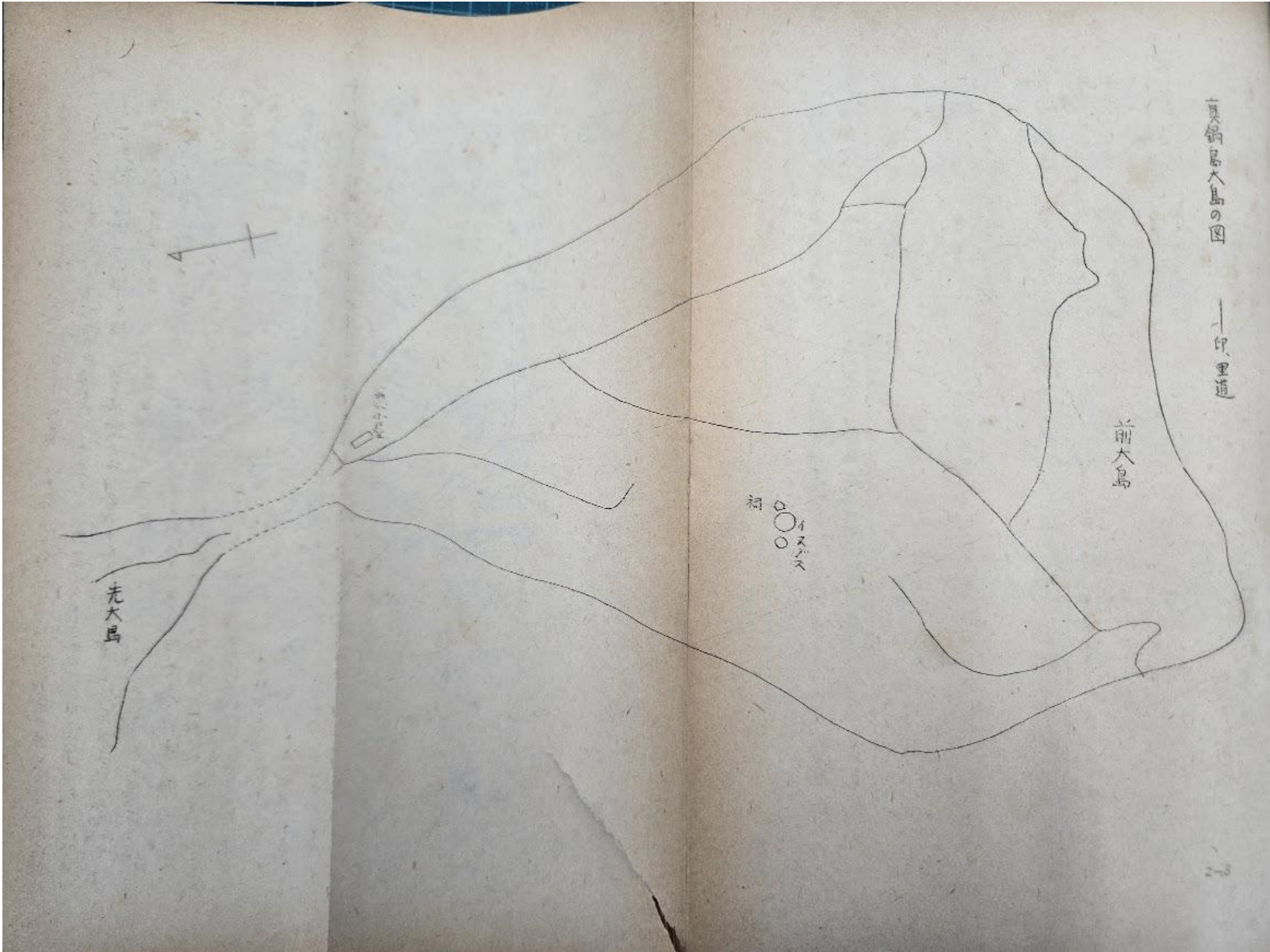
真鍋大島のイヌグス

真鍋島の北方二キロメートルに瓢形の無人島真鍋大島がある。○船で約十五分、この島は先島と前島とに分れ、接続部は大潮のときは没水する。前島の西面、海拔四〇メートルの斜面にあたって森林の様相を呈して繁茂しておるのが本樹であって東西二株に分る。東株は上方にあって大きく、西株は下方に隣接し〇〇小さい。東株の東隅に山ノ神を祀っておる。

イヌグスはクスノキ科に属し、クスノキに似ていて材は楠に劣る。イヌグスの名はここに起った。タブノキ、タマグス等の異名もある。五月には黄緑色の小花三萼三弁、一雌蕊十二雄蕊を開出し秋に黒紫色の球状○果を生ずる

【改頁】

「真鍋島大島の図」



【改頁】

県下の島嶼（周囲一里以上）

面積
km²

周囲
km

1.	鹿久居島	和気郡日生町	一〇・〇二	二四・二二
2.	神島	笠岡市	九・二五	一六・一五
3.	犬島	西大寺市	六・七九	六・二二
4.	北木島	笠岡市	六・四八	一九・〇九
5.	長島	邑久郡裳掛村	三・五五	一五・四九
6.	白石島	笠岡市	二・九三	一〇・〇四
7.	六口島	児島市	二・六三	五・六七
8.	石島	児島郡東児町	二・四七	七・八五
9.	前島	邑久郡牛窓町	二・四七	九・八四
10.	鴻島	和気郡日生町	一・八五	八・九四
11.	真鍋島	笠岡市	一・三九	七・三一
12.	大飛島	笠岡市	一・〇八	六・四四
13.	六島	笠岡市	一・〇八	四・五八
14.	〇島	和気郡備前町	〇・九三	四・五八
15.	高島	笠岡市	〇・九三	五・七八
16.	曾島	和気郡日生町	〇・七七	四・五八
17.	片島	笠岡市	〇・四六	四・三六
18.	小飛島	笠岡市	〇・三一	六・六五

天然記念物 昭和二六・六・二二県指定、学名 *Machilus thunbergii* S. et Z. (クスノキ科)

真鍋大島のイヌグス 笠岡市真鍋島、字前大島五五七〇ノ一 市有地 海拔四〇メートル

東株(上方) 目通五・三メートル 高一五・五メートル 地上二メートルより二枝に分岐

西株(下方) 〃 三・五メートル 〃 八・五 地上二メートルより二枝に分岐

枝張り東西二七メートル 南北二一メートル約七〇〇を覆う 樹令四〇〇年と推定

スノタオ五〇二〇二九〇

【改頁】

イヌグスは東亜の特産で、大体に於て暖帯を好んで自生する。本樹は勿論自生品と考えられる。クスノキ科に属し花が預生する〇で他属と明瞭に区別される。

イヌグスの日本一と称せられているものは福井県小浜市の小浜神社境内にある「小浜神社の九本ダモ」で昭和六年三月国指定のものがあって根元周囲一〇・七メートル、根元から九枝に分れて最大の枝は周囲三、一メートルある。これを本樹と比較すれば左の通り。

小浜の九本ダモ	目通	根元一〇・七メートル
本樹	〃 五・三メートル	〃 六・二メートル
	〃 三・五メートル	〃 四・二メートル

これを以て本樹は日本第二のイヌグスであることが判る。天然記念物として指定の価値がある。

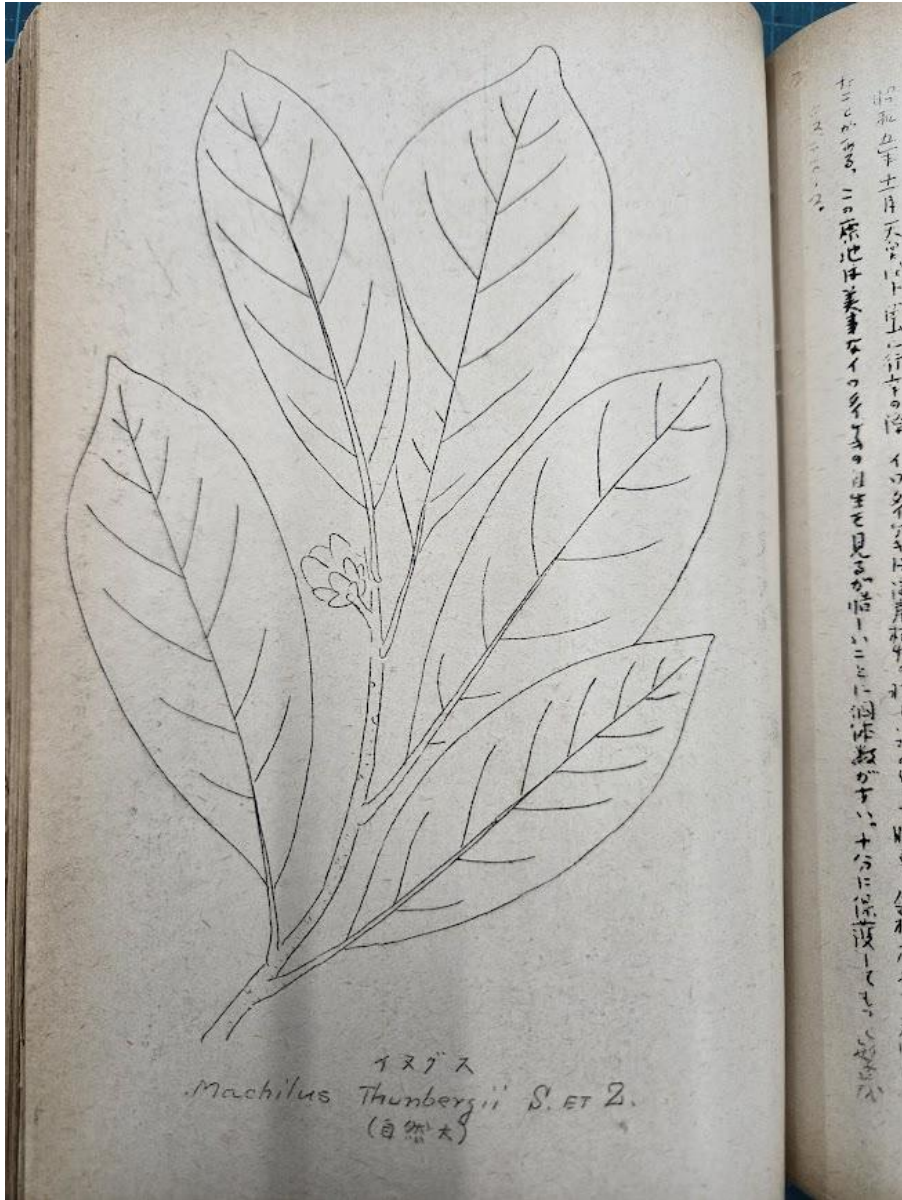
笠岡港外から既にここの樹影を認め望見して一大森林の観がある。これは大切に保存せねばならぬ。

イワタイゲキ自生地

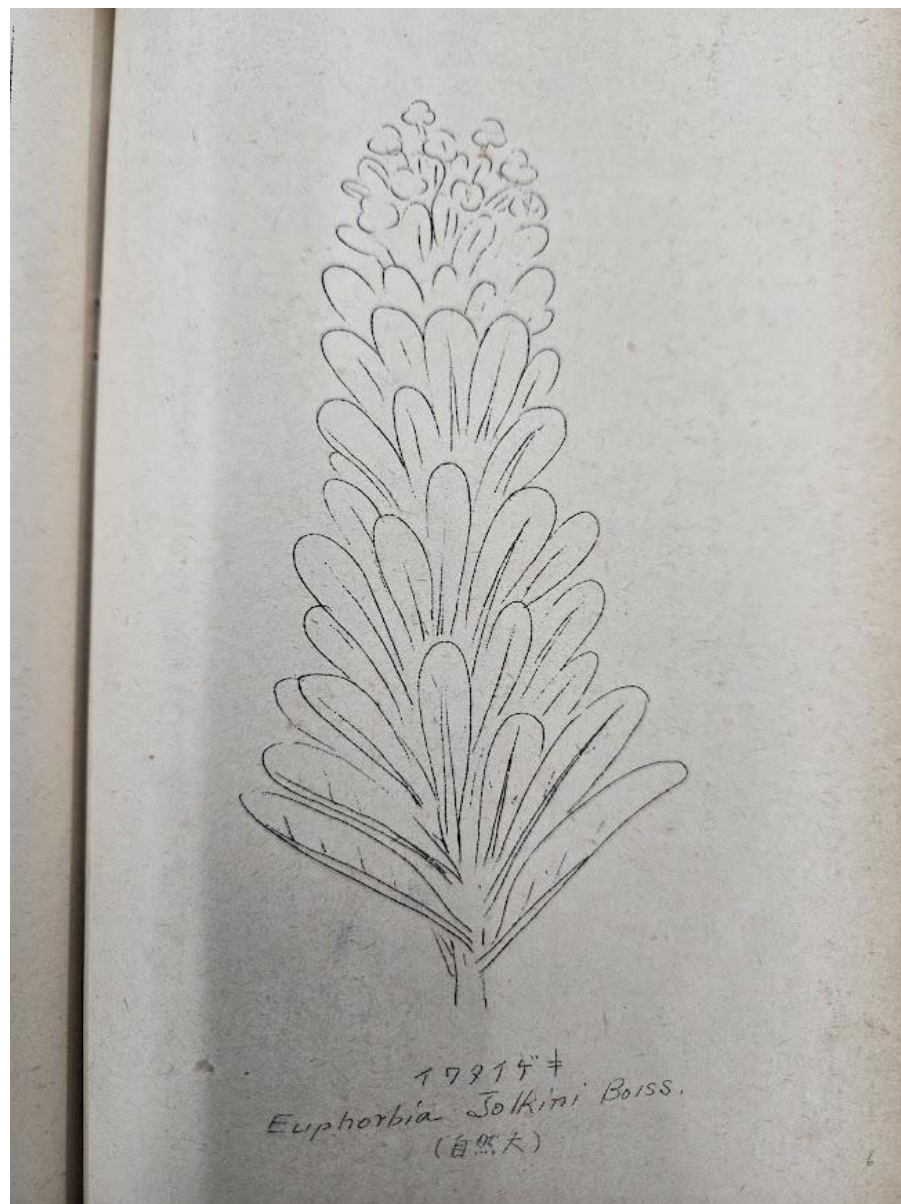
前大島を辞して真鍋島の本島に帰り東端の岩坪にて岬にイワタイゲキ自生地を見る。ここは花崗岩の台地で岩上に小群落があつて越年しておる。イワタイゲキ（岩大戟 *Euphorbia jolkinii* Boiss.）はトウダイグサ科に属する多年生の草本、高さ五〇センチ位、葉は多数叢生し全辺円頭〇〇針形、五月頃に帯黄色の花をつけ、秋に朔果を生ずる。本州、四国、九州から台湾までの暖帯海岸植物である。有毒でその成分はヨウホルビン（*Euphorbin*）〇下剤である。岡山県では和気郡頭島に分布するのみで他には見ない。兵庫県には産せない。香川県には円上島に見る。昭和五年十一月天皇陛下岡山に行幸の際イワタイゲキは海岸植物の珍しいものとして〇果と鉢植標本を天覧に供したことがある。この原地は美事なイワタイゲキの自生を見るが惜しいことに個体数が少い。十分に保護してもって繁茂〇〇〇〇〇〇。

【改頁】

「イヌグス」



【改頁】



【改頁】

真鍋島のオオサボテン

正午、真鍋島本浦に上り、支所にて休憩、昼食後に伴われて久一氏邸のオオサボテンを見る。円福寺の前にあつて寺の石垣に接しておる。測定の結果左の通り。

真鍋島のオオサボテン（一名 ハシラ サボテン）

学名 *Cereus giganteus* ENG. 私名 オオサボテン サボテン科

本種はアメリカのアリゾナ、メキシコ等に自生し熱帯では高さ二十四メートルに達するものがある

茎の周囲 ○. 六メートル 高さ 五. 二メートル

持主 久一〇平氏

来歴 昭和二年頃沖縄方面より移植したという。

只一株で、茎の中途から数枝を分つておる。毎年白花を開く由である。県下稀に見る大きなものであるが冬に不時に寒波のため損傷する憂があるから分植して繁殖を図つてほしい。

妙見のウバメガシ

久一郎を辞して丘陵を上り、妙見のウバメガシを見る。ここは昭和二十六年四月三日真鍋龍太郎氏に伴われて調査したところで、この巨樹はその時の○をそのままにとどめておる。ただ現在は附近一帯花圃となっていて、清

【改頁】

楚なマーガレットの花が群しておる。海拔三〇メートル許で、本浦港の○○が手にとるように見える。

天然記念物

妙見のウバメガシ

笠岡市真鍋島字妙見山 市有地

学名 *Quercus phillyraeoides* A. GRAY. (ブナ科)

目通周囲 二、六七メートル

根元周囲 三、六八メートル

高 九メートル

齡

三百年

玉島市小原のウバメガシと並んで県下ウバメガシ中の白眉である。環境が整備されてないのは惜しい。

真鍋島のホルトノキ

妙見を下りて真鍋氏邸のホルトノキを見る。本樹は昭和五年六月十九日始めて存在を知り、県下に於ける該樹の唯一のものであり且つかかなりの巨樹であることを知り、岡山県に県指定文化財の条令が設けられるや最初に指定しようと考え真鍋島村に通告して指定申請書の提出を促した。持主真鍋龍太郎氏は喜んで申請を致され昭和二十六年四月三日右の申請に応じて踏査、六月二十二日県知事指定となったものである。その後数回視察したが、都度温顔を以て迎えられた真鍋翁は昨年八十歳の高齢で逝去されて、今日は邸内音なく昔日を回憶して感慨無量であった。

真鍋家は真鍋島の豪族で、備中府志に真鍋城主真鍋四郎祐久一ノ谷平家築城の○、平家に随従、軍功ありと記され、弟真鍋五郎祐光、生田の森の先陣に戦功をたてたこと源平盛衰記にも見える。真鍋氏荘有の系図について見るに藤大納言信成の子、不節中太夫が真鍋島に配流して真鍋、北木、飛島、六島を領有して真鍋氏を称すとある。

【改頁】

ホルトノキはモガシともいい台湾、琉球に多く熱帯暖帯性の常緑喬木で、ポルトガル人が持来ったとしてこの名があるが、牧野富太郎博士によれば、オリーブをホルトノキと称したのを誤ってこの木に用いたとの事である。広島県豊田郡大長島に宇津美○社境内にあるホルトノキを筆頭に、静岡、和歌山の○○○兵庫、香川県にも分布するが我が岡山県下には自生物はない。本樹は伝えによると香川県より移植したという。最近に浅口郡里庄町磯川○介氏邸内にホルトノキが移植されてかなり成長しておるのが判った。或はこれを移したのであろうか。

天然記念物	昭和二十六年六月二二日岡山県知事指定
真鍋島のホルトノキ（一名モガシ）	笠岡市真鍋島本浦四〇二六
学名 <i>Elaeocarpus decipiens</i> HEMS. (ホルトノキ科)	真鍋龍太郎氏邸内
目通周囲 二・四メートル	根元周囲 二・六メートル
高 一・二メートル	齡 一
五〇年	

真鍋島の文化財の要所を視察し終ったので午後三時乗船、五時十五分伏越港帰着。